

羽村市史編さんだより

平成30年10月  
第15号

# 伸びゆくはむら

特集 受け継がれる ゆでまんじゅう

2

- ① News
- ③ 部会の手帖
- ⑤ 市史編さんの足跡
- ⑤ コラム「ちっとなべえ」



## 第10回羽村市史編さん委員会を開催

9月25日(火)に第3期羽村市史編さん委員会委員の委嘱状の交付及び、第10回羽村市史編さん委員会を開催しました。会議では、平成30年度上半期の事業の実績や、平成30年度下半期の事業計画について報告があり、今年度刊行予定の『羽村市史 資料編 近世』、『羽村市史 資料編 自然』の編集作業など、順調に進んでいることが確認されました。また、平成31年度に刊行予定の資料編について、各委員から意見を伺いました。



▲第10回市史編さん委員会の様子

## 第3期羽村市史編さん委員会委員を紹介します ※各委員とも第2期からの再任です。

職名	氏名	選出区分	備考
委員長	浜田 弘明	学識経験者	第3部会長 桜美林大学教授
副委員長	江本 裕子	羽村市教育委員会	教育委員会教育長職務代理者
委員	深澤 靖幸	学識経験者	第1部会長 府中市郷土の森博物館学芸係長
	白井 哲哉		第2部会長 筑波大学教授
	白井 正明		第4部会長 首都大学東京准教授
	菊池 健策		第5部会長 元文化庁主任文化財調査官
	白井 裕泰	羽村市文化財保護審議会	文化財保護審議会会長
	清水 亮一	羽村市農業委員会	農業委員会会長職務代理
	増田 一仁	羽村市商工会	商工会会長
	和田 豊	羽村市町内会連合会	町内会連合会会長
顧問	櫻沢 一昭	—	元羽村市文化財保護審議会会長

## 第4回羽村市史関連講座を開催します！

### 「羽村市域の江戸時代を見直す」

講師 白井哲哉さん(羽村市史編さん部会第2部会長/筑波大学図書館情報メディア系・教授)

日時 平成30年12月1日(土)午後2時~午後4時

会場 羽村市生涯学習センターゆとろぎ 講座室1(羽村市緑ヶ丘1-11-5)

定員 80人

参加費 無料

※当日直接会場へお越しください。

※一時保育対応します。

※詳しくは、「広報はむら」11月1日号や市公式サイトをご覧ください。



### 表紙の写真

## 太子講が行われる聖徳神社

羽東2丁目にある聖徳神社では、1月と9月の年2回、祭礼(太子講)が行われます。今回は9月22日(土)に行われました。

現在の聖徳神社は、昭和9年創建の「聖徳太子社」があった場所に、昭和52年に新たに建てられました。

※太子講については、3ページ「部会の手帖」の右上、用語の解説をご参照ください。



# 特集 受け継がれる ゆでまんじゅう

## ●ゆでまんじゅうとは

その名とおおり“茹でた”まんじゅうです。

小麦粉をこねて作った生地で、あんこを包んで丸め、茹でます。酒種を入れて小麦粉の生地を発酵させる酒まんじゅうとはちがい、茹でることモチモチとした食感が楽しめます。

手軽に作る事ができるため、羽村独自の食べ物というわけではなく、様々な地域で作られてきたようです。

ゆでまんじゅうのモチモチ食感の秘密は小麦粉にあります。小麦粉に含まれる特有のタンパク質である「グルテニン」と「グリジアン」が水と一緒にになると「グルテン」がつけられます。「グルテン」は熱によって粘りが強くなり、もちりとした仕上がりになります。



▲ゆであがったまんじゅう

## ●ゆでまんじゅうの今

民俗を担当する第5部会では、衣食住をはじめとする人々の暮らしに関する聞き取り調査を行っています。その一環で、現在もゆでまんじゅうを作っている方たちに実際に作ってみせてもらいました。

今では習慣として作られることはなくなっているようですが、知り合いの祝い事に、七夕に、人に頼まれた時に、自分が食べたい時に、理由はさまざまですが、ゆでまんじゅう作りは続いています。

今回ゆでまんじゅう作りを見せてくださった皆さんは、秋になると羽村市立小作台小学校へ行き、ゆでまんじゅうの作り方を教えているそうです。親から子へと引き継がれてきた味が、地域から子供たちへ伝えられています。



▲ゆでまんじゅう作りの様子

## ●ゆでまんじゅうと羽村

水田が少ない羽村市域では、江戸時代から作物の中心は麦作でした。明治から大正期は、収穫高が米よりも麦が多い統計資料も残っています。

麦（大麦、小麦）は、麦飯やうどんなど、主食として食べるほか、石臼で粉に挽いてコナブルーイでふるい、砂糖をまぶして食べる「コガシ」や、小麦粉を水でといてホウロクで焼いて食べる「タラシヤキ」など色々な食べ方があり、ゆでまんじゅうも、そのひとつです。家によってさまざまですが、祝い事や祭りの日には酒まんじゅう、茶摘みなど親戚や近所の人達に手伝いを頼む時にはゆでまんじゅうを作っ



▲聞き取り調査の様子

# 部会の手帖



各部会の活動の様子を紹介します。  
※7～9月の活動をお知らせします。

## 用語の解説

- \* たいしこう 太子講…大工や左官などの職人が集まり、聖徳太子（うまやとのおうじ 厩戸皇子）を祀る祭礼です。彼は、法隆寺建立などの神社建築における功績から、主に建築関係の守護神とされています。

## 第1部会 ～原始・古代・中世～

縄文班は、資料編に掲載する出土遺物情報の分析のほか、遺構や遺物の実測図をデジタルデータ化する作業を進めています。また、遺物の実測図を新たに作成する作業も行っています。

中世班は、引き続き阿蘇神社に保管されている中世資料の調査を行い、棟札の写真撮影をしました。鍛冶遺跡、吉祥寺跡出土遺物の実測も進めています。また、来年度刊行予定の『羽村市史 資料編 考古』の内容について部会内で検討し、今後の作業確認を行いました。



▲遺跡出土遺物の実測の様子

## 第2部会 ～近世～

市内の調査では、阿蘇神社に保管されている古文書調査を実施しました。阿蘇神社には、羽村市域や近隣の村々に関係する事柄の記録も残されており、今回の調査では慶応二年（1866）に起こった武州一揆について一揆の顛末や羽村周辺に現れた一揆勢への対応について確認することができました。

市外調査では、羽村に関連深い天明一揆関係の史料調査を行いました。今年度の資料編刊行に向け、執筆・編集作業を順次進めています。



▲古文書調査の様子



## 第3部会 ～近代・現代～

羽村における近現代史の出来事を確認するため、羽村市役所内に保管されている公文書の調査や、東京都公文書館に所蔵されている羽村関連の史料の調査を進めています。また、羽村に関する過去の新聞記事についてもピックアップし、内容の整理・確認を行っています。

これらの調査を通して、『羽村市史 資料編 近現代』の章立てについて部会内で検討しました。



▲調査の様子

## 第4部会 ～自然～

気候班は、市内全域で気象観測を行いました。台風の影響が残るなか、予定を急きよ変更して実施することができました。

観測の始まる14時には、台風一過で気温も一気に上昇、晴れ渡った夏らしい青空の下で最後の観測を終えました。

地形・地質班も調査の終盤を迎え、生態班のセンサーカメラは、8月に撮影終了しました。

いよいよ第4部会では全班で編集作業が本格化していきます。



▲移動観測調査の様子

## 第5部会 ～民俗～

9月3日から5日にかけて、部会員の合宿による聞き取り調査を実施しました。それ以外にも、部会員が個別に調査に訪れ、追加の聞き取りや確認調査をしています。

また、盆の迎え火、神社祭礼、ゆでまんじゅう作り、太子講などを調査撮影させていただきました。これから一年の間に、さまざまな行事や風習などを調査、撮影していく予定です。



▲聞き取り調査の様子

# 市史編さんの足あと

※①～⑤は部会の数字です。(例) ① ⇒ 第1部会

月	日	できごと	月	日	できごと
7月	5日(木)	⑤ 市内資料調査(郷土博物館)、聞き取り調査(個人)	8月	16日(木)	② 市外調査(府中市) ⑤ 市内資料調査(郷土博物館)
	11日(水)	① 市内資料調査・写真撮影(郷土博物館) ② 市内資料調査(郷土博物館) ⑤ 市内資料調査(郷土博物館)		20日(月)	⑤ 市内聞き取り調査(個人)
	12日(木)	① 市内資料調査・写真撮影(郷土博物館) ⑤ 市内聞き取り調査(個人)		27日(月)	⑤ 市内聞き取り調査(個人)
	13日(金)	⑤ 市内行事調査		28日(火)	③ 庁内保管資料調査 ※以後、定期的に実施。
	18日(水)	⑤ 市内資料調査(郷土博物館)	9月	3日(月)	⑤ 市内合宿調査(～5日(水))
	19日(木)	⑤ 市内聞き取り調査(個人)		5日(水)	⑤ 市内行事調査
	27日(金)	① 市内資料調査(阿蘇神社) ② 市内史料調査(阿蘇神社)		6日(木)	② 市内史料調査(阿蘇神社)
	29日(日)	④ 気温の移動観測・風向風速観測・水温観測 ⑤ 市内資料調査(郷土博物館)、聞き取り調査(個人)		10日(月)	⑤ 市内聞き取り調査(個人)
	8月	6日(月)		② 市内聞き取り調査(個人)	12日(水)
10日(金)		① 市内資料調査(阿蘇神社) ② 市内史料調査(阿蘇神社) ⑤ 市内聞き取り調査(個人)		16日(日)	⑤ 市内行事調査
				18日(火)	⑤ 市内行事調査
				22日(土)	⑤ 市内行事調査
				25日(火)	第10回羽村市史編さん委員会
			26日(水)	③ 市外史料調査(東京都公文書館)	
			27日(木)	③ 市外史料調査(東京都公文書館)	

## コラム

## ちっとなべえ

### 第15回 「縄文土器の復元」

少し前になりますが、上野の東京国立博物館で開催されていた「特別展 縄文—1万年の美の鼓動」を観てきました。展示されていた縄文土器は、国宝の火焰型土器をはじめ、どれも美しい形をしており、縄文人のセンスに感嘆せずにはいられませんでした。

しかし、そのほとんどが復元された土器でした。遺跡から出土する土器は、多くが破片で発見され、調査後半の整理作業でパズルを組み立てるように接着剤でくっつけて形を整えていきます。そして、どうしても土器片が見つからないところを、他の「資材」で埋めて復元土器を完成させます。

その「資材」が最近「ハンパねえ」なのです(ちょっと古い！)。私が学生時代から羽村市の遺跡発掘をしていた若いころ、その「資材」は「石膏」しかありませんでした。粉の石膏を水で溶いて、固まらないうちに土器の隙間に流し込んで形をつくっていました。水の分量を間違えると石膏は固まってくれません。タイミングを間違えると土器に流し込む前に固まってしまう。多くの無駄があった復元作業でした。

最近、市史編さんの写真撮影のために、天王台遺跡から出土した土器を再復元しました。いま、この業界で普

及している「資材」は石膏ではなく「固まる粘土」です。色の付いた粘土と凝固用粘土を混ぜ合わせて、足りない土器片の部分を埋めていきます。普通の粘土のように扱うことができ、石膏よりもずっと固まるまでの時間が長いので、とても作業がしやすいのです。そしてなによりも軽いのです。はじめてこの「資材」で復元しましたが、石膏に比べ無駄も少なく、短時間で復元土器を完成させることができました。

羽村の縄文人も、自分たちが使った道具が、このように復元されて、市の歴史の一部に活用されるとは思ってもみなかったでしょう。(M.M 記)



※「ちっとなべえ」とは、羽村の昔ことばで「ちょっと、少しばかり」という意味です。